

Thematic Exhibition

Nomadic Lives and Textiles: The Baloch People

2024年11月12日(火)～2025年2月16日(日) 東京国立博物館 東洋館13室

特集

遊牧のくらしと テキスタイル

—— バローチを中心に ——

遊牧民とは、家畜とともに水や牧草を求めて定住と移動を季節ごとに繰り返す生活をおくる人びとのことです。山羊や羊の毛を使って製作された敷物や袋物には、遊牧生活を快適に過ごす工夫が詰まっています。バローチとは、パキスタン、アフガニスタン、イランにまたがるバローチスターンを中心に暮らす、イラン語派のバローチー語を話す人びとのことです。一口にバローチといっても、夏には涼しい地域、冬には暖かい地域へと移動して暮らす人びとから、農耕に従事する人びとなど、生活様式は一概ではありません。しかし、牧畜はどのバローチにとっても等しく生活を支える重要な営みであり、1979年には約6割の人びとが遊牧生活をおくっていたといわれています。親族を中心とした小さなグループで生活をおくり、遊牧の際には山羊、羊、ラクダ、ロバとともに移動します。移動時には、袋物に塩や皿などの生活用品を詰めて家畜に載せ、短期間その場にとどまるキャンプ時には、枝を組み黒い毛織物をかけたギダーンと呼ばれる簡素なテントに敷物を敷き、装飾布をかけます。

本特集では、バローチのくらしに着目し、織技法や文様の特徴とともに、テキスタイルと生活とのかかわりについて紹介します。作品を収集した松島きよえ氏が撮影した、20世紀後半のバローチの生活風景や、現地に広がる景色にもご注目ください。

The Baloch people speak the Balochi language and are based mainly in Balochistan, a region that spans across Pakistan, Afghanistan, and Iran. Some of the Baloch people are nomadic and move from place to place by season together with their animals such as goats, sheep, camels, and donkeys in search of pasture. They make rugs and bags that they would use for everyday life.

This exhibition sheds light on the lives of the Baloch people. It introduces their weaving techniques, characteristics of the patterns on their textiles, as well as the relationship between textiles and nomadic lives in general.



遊牧の様子



バローチのテント



敷物

キャンプの際、組み立てたテントの中には^{つづれおり}綴織、^{もん}紋織、スマック織などをつかった敷物を敷きました。織機は外に設置され、おもに女性が織り上げました。

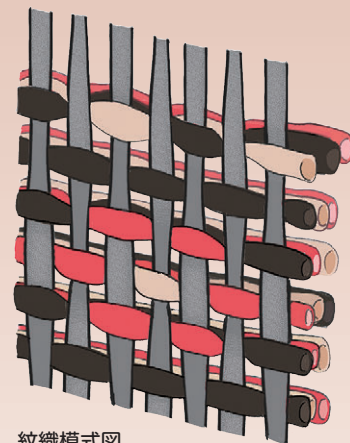


しきもの あかちゃじ だんほし き かもんよう
敷物 赤茶地段星幾何文様

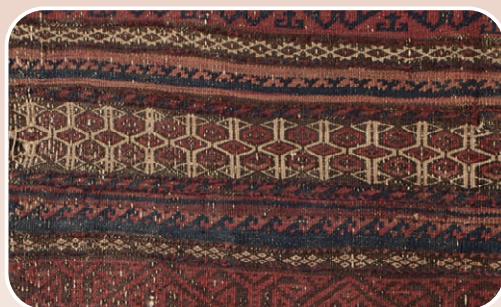
Rug with Stars and Geometric Patterns

パローチ 20世紀前半 TI-561-12

2～3色の糸をひと組とし、文様に
応じて表面で平織にし、裏面でそのほ
かの色を浮かせることで、細かな幾何
学文を織り表わしています。



紋織模式図



表面



裏面

しきもの こげちゃじ だんはなびし き かもんよう
敷物 焦茶地段花菱幾何文様

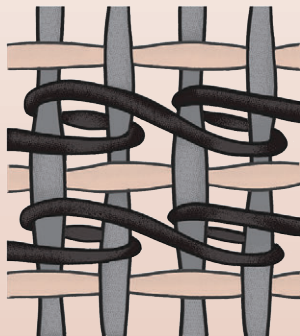
Rug with Floral Diamonds and Geometric Patterns

パローチ 20世紀 TI-561-2

文様の色の切り替えに合わせて、^{よこいと}緯糸を織り入れてい
く綴織と、緯糸を経糸に巻き付けるように入れるスマ
ック織を併用して、1枚の敷物を織り上げています。



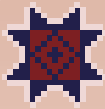
表面



スマック織模式図



外で織物を織る女性。完成
した織物の上に乗って、織
り進めています。



袋物

岩塩を保管する塩袋や、移動時に物を詰めて家畜の背に掛けるためのサドルバッグなど、遊牧生活にあった形状の袋がつくられました。多くの袋物は1枚の織物を折り、輪の部分で袋の底とし、左右を縫い縫いで製作されています。



しおぶくろ しろこげちゃじ ひしき かもんよう
塩袋 白焦茶地菱幾何文様

Salt Bag with Geometric Diamonds

パローチ 20世紀 TI-575-7 小西明人氏寄贈

口をすぼめて製作することで、家畜の口が入らないようにしました。



パキスタン、ペシャールワルの岩塩



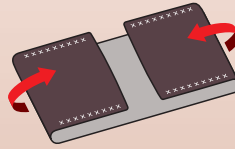
こげちゃじ き かもんよう
サドルバッグ 焦茶地幾何文様

Saddlebags with Geometric Patterns

パローチ 20世紀前半 TI-565-4

サドルバッグ模式図

両端を折り、左右を縫い縫いで二つの袋をつくっています。



パイル織や紋織を組み合わせています。ループを絡めることで、袋口を閉じることができます。



しよき ようぶくろもの
食器用袋物

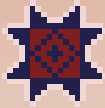
Bag for Eating Utensils

パローチ 20世紀 TI-583 小西明人氏寄贈

毛を編んで製作された袋で、食器などを収納しました。下方にはコヤスガイがつけられています。



袋の使用例



食卓布



しよくたくふ しろこげちゃじ だんき かもんよう
食卓布 白焦茶地段幾何文様

Dining Mat with Geometric Patterns

パローチ 20世紀 TI-570-4

綴織、紋織、スマック織で織り上げられています。多様な技法や2色の糸の装飾から、特別な日のための食卓布と考えられます。



パンを焼くパローチまたはブラフイーの女性



ブラーフイーのテキスタイル

ブラーフイーはパローチのなかでドラヴィダ語派のブラーフイー語を話す人びとで、おもにパキスタンに暮らしています。パローチと歴史的に深いかわりを持ち、文様や染織技法にも共通点がみられますが、一層緻密に織り上げられた幾何学文様は、ブラーフイーの大きな特徴です。

しおふくろ あかちゃ じ しまだんはな き か もんよう
塩袋 赤茶地縞段花幾何文様

Salt Bag with Stripes and Floral Geometric Patterns

ブラーフイー 20 世紀 TI-575-8
小西明人氏寄贈

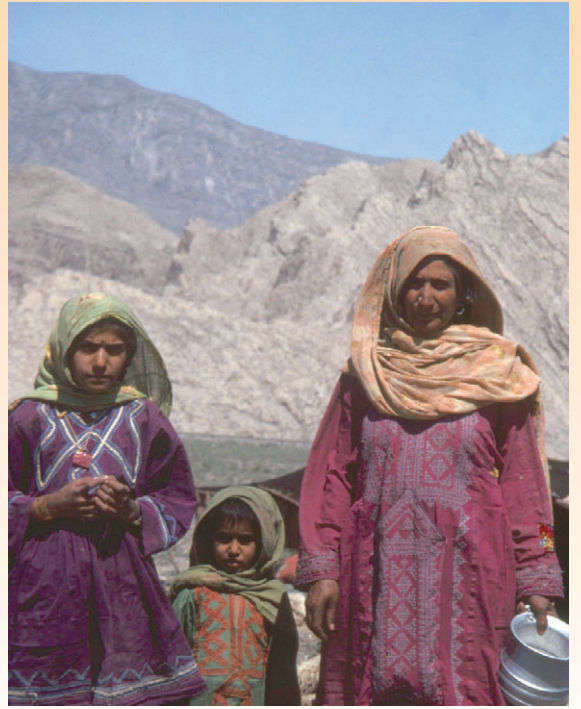


そうしよくふ こげちゃ じ だんはなびし き か もんよう
装飾布 焦茶地段花菱幾何文様

Decorative Cloth with Floral Diamonds and Geometric Patterns

ブラーフイー 20 世紀前半 TI-564-1

全体に綴織、紋織で細かく幾何学文様を織り表わしています。テント内に積み上げた布団を隠すようにかけました。



ブラーフイーの女性と子ども



パローチのテキスタイルの影響

アフガニスタン西部にはさまざまな人びとが暮らしており、パローチに近い色づかいや文様のラグが、別の人びとの手で織られていることもあります。遊牧民の染織品において、文様の交流をうかがい知ることができます。

だん き か もんよう
クッションカバー 段幾何文様

Cushion Cover with Geometric Patterns

チャハールアイマク 20 世紀 TI-567-1

幾何学文様が紋織で表わされますが、色合いはやや明るく、アフガニスタン西部に暮らすチャハールアイマクによる作品と考えられます。



特集 遊牧のくらしとテキスタイル — パローチを中心に —

令和6年(2024)11月12日発行

企画・執筆：沼沢ゆかり 撮影：藤瀬雄輔 翻訳：君波妙子(以上、東京国立博物館)
制作・印刷：精興社 編集・発行：東京国立博物館

特別協力：村山和之 協力：榊龍昭 写真協力：小西明人

本研究はJSPS 科研費 JP24K00028 の助成を受けたものです。

© 2024 東京国立博物館 Tokyo National Museum